

なお、道浦先生は講演終了後の懇親会にもご同席くださり、会員が即興でつくった短歌をご講評頂きました。お蔭で大変楽しいひと時を有意義にすごすことができました。以下は、会員の作品です。

### 会員の皆さんの即興でつくった作品

池埋めて 青葉まぶしき 朝の庭 我れ退陣の 道よ輝け (高木久美子)

死ぬ前に イチゴが好きと はじめてわかり 買い求めて 母に食べさせる (浜地正男)

ふるさとの 駅の別れを 今にして 想えばすでに 六十のあの人に会いたし (前田武男)

思い出す 見慣れぬ雲を 西の空 四川の地震の 前の日の夕 (毛利征一郎)

終電に 間に合うかしら と言う君に 酔ったふりして 指をからます (室永智恵子)

額に汗して 働けど働けど 決して楽にならない生活が これで良いのか 格差社会

美しさ 蔭でささえて 水をやる 地域の人の 心美し

亡き妻に 今年は一人で来たよと語りかけ 旅先で昔を思い一人酒

ピヤガーデン 雨が降るなら ピヤホール 何れにしても ビールがぶ飲み

ピヤガーデン 雨が降っても 傘さして 飲み続けるか 悲しきおまえ

母の日に 子供らからの贈り物 ローズマリーの香り清しく

ガーベラの 花びらに似て やさしさの 香りただよう 今日の講演

きのうまで 単身赴任していたが いつのまにやら 居候なり

過ぎ去りし 月日の早さに驚きて 時間を惜しむ 古稀の春かな

江坂企業 何の利もなく富みもなく 有るは町の奉仕と我が誇り

熊野古道 じゆうむじんの旅 心休まる樹木

春待ちて 初夏過ぎ行きて 花もなを 心を偲う 人の乱れを



新緑の 若葉に希望 育毛の 効果ためしや 大枚はたく

新緑の故郷(くに)の山野を駆け巡り 時間(とき)を忘れ 山菜を採る

雷鳥の 屋根に厚雪 積もりし夜に 妻は小浜から 家出してくる

なぶら来て ハチマキしめて 気をしめて いざ戦うぞ 子の笑 うかべ

上町の断層の上で地震談 江坂企業の未来危うし

青空へ ナイスショットの声聞くと ヨッシャの気も ここまでの オレ

地球温暖化 今日世界のどこかで災害が 罪ない一人の生命が奪われる

友と行く たくましき子の 背中見る 妻の横顔 言葉出てこず

紀伊半島 熊野の山ろく 世界遺産

かたよりのない ころは 先祖へ 感謝の今日一日

新緑の熊野の山ろく 眺めてしのぶ想い

十津川の陰しき道を走りおり 熊野の灘の 水面映えたり

笹舟の 静かに浮かび流れ行く 君が真白き指をはなれて

やわらかき 清水のごとき うたごころ 企業戦士の 心をあらう

スクールとやしのむこうの稲妻は 幼き頃の夕立を想(み)る

紫の 咲き匂いける 藤の花 緑の山に高くのぼりて

仏桑華炎ゆ陽光の島の涯 摩文仁(まぶに)の丘に御霊眠らむ

追記:道浦母都子さんは吹田市青山台ご在住の歌人で、吹田市教育委員会委員。昨年5月上梓された初めての小説「花降り」(講談社刊)が人気を博している。

